

卒業生が中心になって立ち上げた建築・家具のプロフェッショナル集団

NPO 法人 WOOD AC (岐阜県美濃市) + 家具工房 AC CRAFT (岐阜県美濃市)

坂崎 有祐 さん(2期生・木造建築専攻)
WOOD AC 理事、有建築設計舎(岐阜県) 主宰
建築系大学卒業後、建築実務、アカデミーを経て独立

神谷 義彦 さん(2期生・木造建築専攻)
WOOD AC 理事、神谷建築スタジオ(愛知県) 主宰
建築系大学卒業後、建築実務、アカデミーを経て独立

WOOD AC 理事
温熱環境の専門家

WOOD AC 代表理事
木質構造の専門家

滝口 泰弘 さん(1期生・木造建築専攻)
WOOD AC 理事、滝口建築スタジオ(東京都) 主宰
建築系大学卒業後、建築実務、アカデミーを経て独立

WOOD AC 監事
木造建築の専門家

石井 愛 さん(1期生・木工専攻)
AC CRAFT(岐阜県)
大学卒業後、建築実務、アカデミーを経てAC CRAFT

塩田 佳子 さん(3期生・木造建築専攻)
WOOD AC 理事、スタジオすずぶ一級建築士事務所(岐阜県) 主宰
建築系大学卒業後、建築実務、アカデミー、WOOD ACを経て独立

石井 学 さん(1期生・木工専攻)
AC CRAFT(岐阜県) 主宰
建築系大学卒業後、建築実務、アカデミーを経て独立

WOOD ACは、アカデミーのある岐阜県美濃市に拠点を置く建築に関する活動を行う特定非営利活動法人(NPO法人)で、1期性、2期生が中心になって「より良い木の住まい」というテーマのもとに集まったプロ集団です。設計実務や構造試験を行いつつ、国産木材の需要拡大や良質な住宅ストックの形成等の社会的活動も行っています。

メンバーは、各自で設計事務所を主宰しつつも、大きなプロジェクトでチームを組む場合や、社会的活動を行う際に集まり、それぞれの専門を活かして大きな力を発揮します。1人1人の力がしっかりしているからこそ、信頼できるチームメイトになります。

ここに深みを与えるのが、近くに居を構える家具工房AC CRAFTの石井夫妻です。建築を学んだ後、アカデミーの木工専攻から独立しました。木工関連の相談や仕事はスムーズに行えます。ここにもアカデミー時代からのネットワーク形成が活きています。

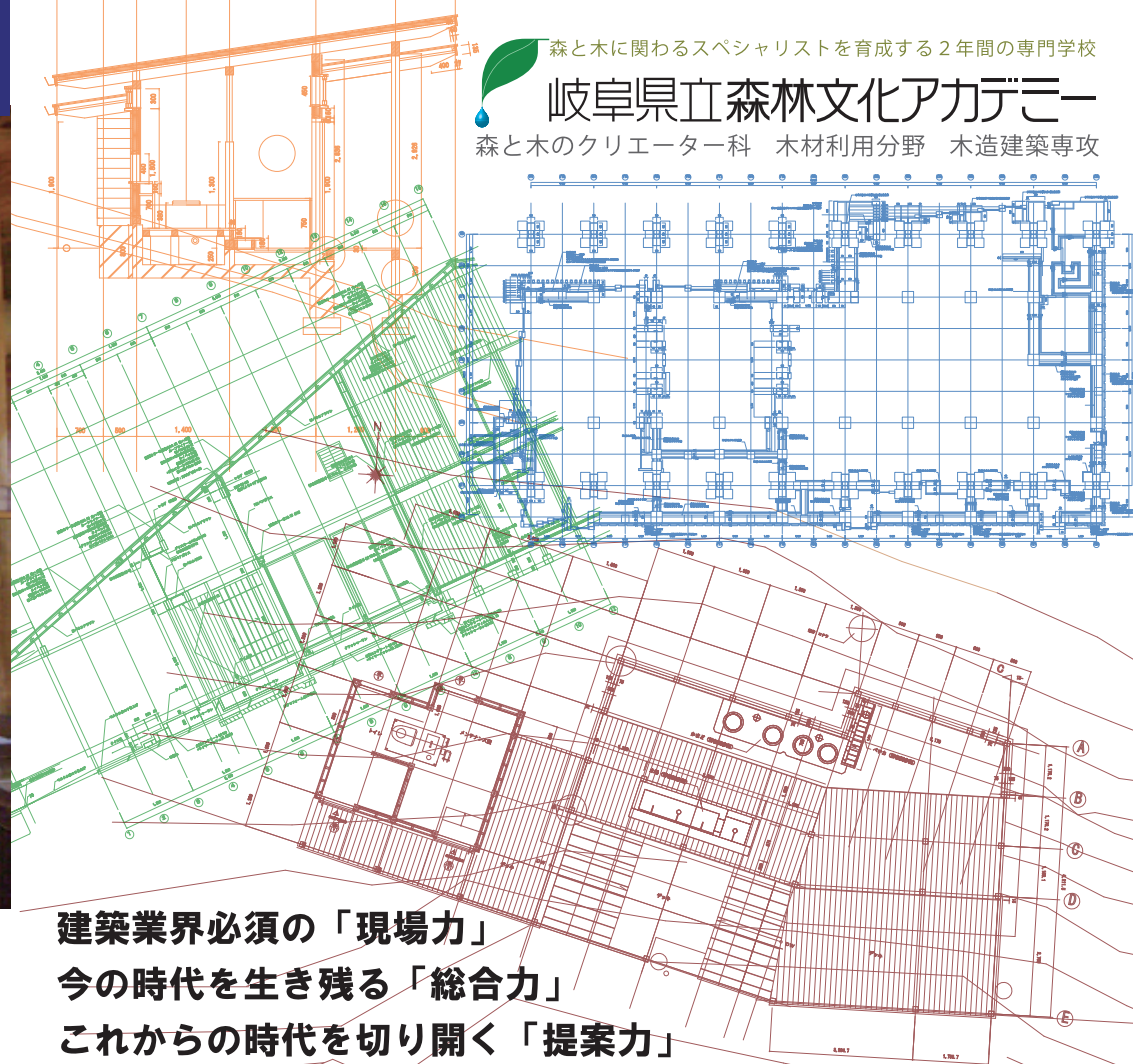
さらに、卒業生を育てるインキュベーターとしても機能しており、一旦WOOD ACで活動した後に独立したり、SOHOとして事務所を間借りしている卒業生もいます。エンジニア科(アカデミーの高卒対象コース)の卒業生もチームの一員として活躍しています。アカデミーのすぐ近くに卒業生ネットワークが形成されているのは非常に心強い状況でもあり、信頼できるパートナーです。

履修期間：2年
学年定員：4つの専攻(林業、森林環境教育、木造建築、木工)の合計20人(木造建築専攻で概ね5名程度)
受験資格：大学卒業(見込み者含む)の資格を有する物、又は同等以上の実務経験者など
試験科目：小論文(800字) + 個別面接
授業料等：入学金282,000円、授業料535,800円/年【2年間合計1,353,600円】
※給付金、奨学金も多数あります。詳しくはアカデミーホームページでご確認ください。

一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格を取得可能

※所定科目を履修し卒業すると二級建築士、木造建築士の受験資格を取得できます。
※さらに卒業後4年以上の実務経験を積むと一級建築士の受験資格を取得できます。

www.forest.ac.jp 501-3714 岐阜県美濃市曾代 88 岐阜県立森林文化アカデミー
TEL 0575-35-2525 / FAX 0575-35-2529 / Mail info@forest.ac.jp



森と木に関わるスペシャリストを育成する2年間の専門学校
岐阜県立森林文化アカデミー
森と木のクリエイター科 木材利用分野 木造建築専攻

建築業界必須の「現場力」
今の時代を生き残る「総合力」
これからの時代を切り開く「提案力」

木造建築を学ぶ

- 1 実践を通して学ぶ 自力建設プロジェクト
- 2 リフォーム時代の必須科目 木造建築病理学
- 3 次世代版設計の先取り 木造建築の性能設計
- 4 社会で求められる実践力 実践プロジェクト
- 5 総合力の素地づくり 木造建築の専門科目
- 6 自分だけの武器を持つ 課題研究

7つの強みで建築力を鍛える 7 人の繋がりが資産になる ネットワーク構築

実践を通して学ぶ 自力建設プロジェクト

入学してすぐに始まるのが学生が自ら設計・施工で小さな建築物をつくる自力建設プロジェクトです。演習林から伐出した樹木を製材し、図面通りに墨付け、刻みを行い一年かけて竣工させます。この建築過程で、木造建築に関する基本的な知識や要点を学びます。また、職人さんとのやり取りや予算管理など、実務に即した内容になっています。入学したてで建築の実施図面を描き建設するというかなり大変な教育プログラムですが、やるべきことが明確なため、効率的に勉強を進めることができます。



※この効果的な教育プログラムが評価されて2016年ウッドデザイン賞受賞、2007年建築学会教育賞受賞。



自力建設の大工体験の様子
大工さんの指導の下、木材の刻み・加工をしています。

山からつながる木造建築の教育手法

建築教育の軸「自力建設プロジェクト」は、新入生に与えられる最初の課題です。毎年1棟、1年間で学生自らが設計、施工し、さらに翌年は利用者となり、メンテナンスも行います。小さな建築であっても、つくられるプロセスや考え方に大差はありません。利用者のことを考え、陽のあたり方や風の吹く方向、その土地からの見え方や見られ方、周辺にある樹木の特徴など、土地の持っている特質を読み、試行錯誤を繰り返し、計画し表現します。そして、地域の職人さんの指導の元、土を掘り、基礎をつくり、木材を加工して、軸組みを建て、屋根、壁、床をつくり、設備を組み立て、仕上げをし、約一年という期間を経て、建築をつくり上げます。

建築するということは、そこにあった自然を破壊する行為を伴います。そうまでして建築することの意義を見出し敬意を払って建築を進めます。

さらには、木という素材のクセを読み、使いこなす面白さ。いろいろな方々の協力によってこそ完成できるという事実の認識。地鎮祭や上棟式といった各種式典の大切さ。色彩や素材感をいかに表現するか。竣工後の使い勝手、メンテナンスの意味合い。学ぶべきことは多種多様に広がります。

これらを悩みながら実際につくり上げていくことで、机上の設計だけでは学ぶことができない深い思考が自然と身につきます。

1年目の秋には、学内演習林から切り出してきた木材を、製材し乾燥します。翌年入学する新入生への乾燥材のプレゼントです。

使うごとに、自然素材のもつ深みが増し、手を入れることで愛着も増します。そこには作業効率を追求した現代の建築では持ちえない感動があります。これからの建築に必要な教育の原点がここにあると考えています。

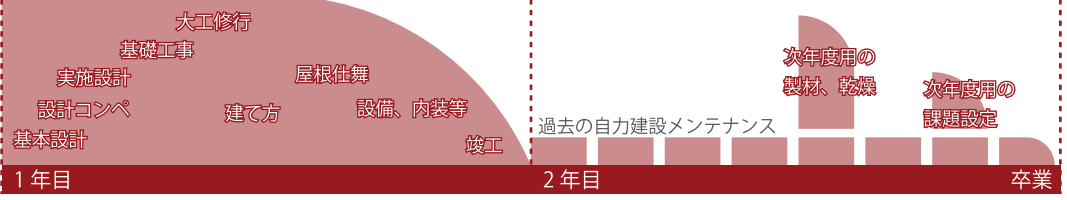


CADの基礎を学び、頭の中のイメージを図面に落としていきます。図面にするためには、動作寸法の理解や構造の検討、施工手順等を理解しないと書けません。並行して学んでいきます。



2016年度自力建設プロジェクト「Oasis」
自ら考えた建築が、実際カタチとなって現れる充実感がある。

自力建設プロジェクトの流れ



2 リフォーム時代の必須科目 木造建築病理学

木造建築病理学では、木造建築・住宅に関する調査手法や定量的な性能評価、説明力などの改修技術を体系的に学びます。実際に建物調査を行い、調査結果はわかりやすい「住まいの診断レポート」にまとめます。壁や屋根など開けてみるまでわからないという曖昧さを極力少なくする適切に診断・計画する技術を学びます。これから増加してくる改修需要に備えます。
※木造建築病理学を活用した改修手法で、国土交通省 長期優良住宅先導事業の採択を3回受けました。



木造建築病理学に基づく改修を行った住宅

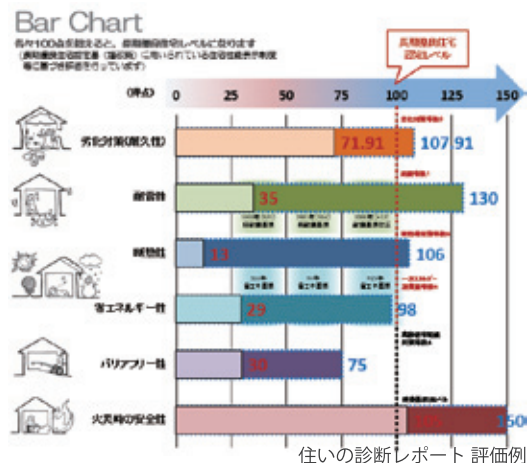
「住まいの診断レポート」でしっかり診断

年2回集中的に行われる木造建築病理学で、改修について体系的に学び、既存建物の6つの性能(①劣化対策、②耐震性、③断熱性、④省エネルギー性、⑤バリアフリー性、⑥火災時の安全性)を定量的に診断、表現する手法を学び「住まいの診断レポート」にまとめます。診断レポートでは、6つの性能を所見とともにバーチャートやレーダーチャートにまとめ、建物全体の性能バランスが一目でわかります。(改修前後の比較もできます。)

このレポートを一般の住まい手にもわかりやすく伝えるためには、内容についての十分な理解や、伝える技術が無いと出来ません。これも重要な学習のポイントです。

講座の中では、各種性能の根拠や計算、診断方法に加え、実践例の紹介もあり、改修方法の様々なパターンや必要なコストを見ることが出来ます。

また、不定期に入る実際の調査実習で、現場での確認ポイントや調査の段取り、野帳のまとめ方なども学び、調査、分析手法を身に付けていきます。



木造建築病理学の流れ



3 次世代版設計の先取り 木造建築の性能設計

阪神淡路大震災、耐震偽装事件などを背景に、構造性能を明確に示すことは必須条件になりました。加えて、京都議定書やパリ協定によって環境性能や省エネ性能の必要性が高まります。また、高齢者のヒートショック防止の観点から温熱性能等も注目を集めています。

このように、建築には様々な性能がバランスよく必要になり、それらを定量的に把握し、きちんと説明する力がこれから必ず必要になってきます。そこで、アカデミーでは、実務に必要な構造設計、省エネ設計、防耐火設計など木造建築の性能設計の手法を学びます。

木材性能設計

木材は、光合成によって作られた生物由来の材料です。立木の状態では多くの水を含み、強度のバラツキもあります。使う段階になると梁のたわみ(クリープ現象)、乾燥収縮、材面割れ等の事象が現れることがあります。それらに対する、製材木取り、人工乾燥、ヤング係数による強度の仕分けなどの木材利用技術を知り、木材の長所短所を知ることで、木材を適正に使用することを学びます。

近年はウッドマイルズ(輸送時の環境指標)や森林認証制度(適正な森林管理指標)といった環境性能指標も広がっています。



学内に設置された製材機による製材の様子



木材開放試験室に設置された実大壁構造試験の様子

構造性能設計

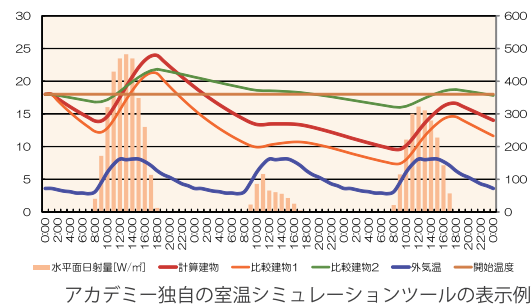
構造性能は、命に係わる性能です。地震や台風の際に効いてくる耐力壁の量やバランス、壁に力を伝える床の水平構面や接合部、床を支える横架材の断面算定、建物のベースとなる地盤や基礎の耐力など考える要素は多岐にわたります。それぞれを適切に設計し、計算することで、建物の安全性を確保します。

本学には、壁の実大試験機や梁の曲げ断試験機などの実験設備が充実しています。計算値と実測値を比較しながら、効果的な学びを実現します。

環境・温熱性能設計

断熱、気密、日射制御、防露性能が温熱性能の基本です。これらの性能を適切に設計することで健康的で心地いい室内環境を実現します。そのうえで、エネルギー消費性能やライフサイクルを通しての性能など総合的な計画が重要です。

壁や屋根、床、窓の各部位の性能計算や導入設備から、室温やエネルギー、光熱費計算を学びます。また、既存建物の温熱環境やエネルギー実測を行い、住まい方によるエネルギーや適温の違いも確認し、設計にフィードバックします。



アカデミー独自の室温シミュレーションツールの表示例

木造建築の性能設計の流れ

自力建設や木造建築病理学等と連動して、授業のなかで性能設計を行います。専門科目内での修得に加え、随時必要に応じて習得します。

全体をバランスよく性能設計について深めます。

特に習得すべき分野について深めます。

1年目

2年目

卒業

4 社会で求められる実践力 実践プロジェクト

実践プロジェクトは、学外の建築実務者と協同行うプロジェクトです。自力建設で培った知識、技術、経験をもとに、住宅の設計・監理や、構造の依頼試験、公共建築の設計、木材強度試験など、リアルなプロジェクトに参加します。教員や実務者のサポートも受けながら、心地いい緊張の中で、机上の授業だけでは身につかない実践力を鍛えます。

※年度によって実践プロジェクトの内容は異なります。

個人住宅プロジェクト 「小野の長家」

学生が関わった住宅の設計プロジェクトです。授業が並行して進んでいる中、スケジュールを管理し、出来る範囲で設計、現場監理に関わります。ここには自力建設で培った経験が活かれます。

この住まいは、日射熱や通風、薪ストーブなどの自然エネルギーを極力活用しつつ、心地よく暮らせるように、何度も学生と議論を重ねて計画されています。当然、性能設計の学びを活かし、構造や温熱計算なども行い、わかりやすく住まい手に説明します。

特にこだわったのが木材です。天然乾燥された地域材を活用し、含水率やヤング係数の計測などの木材管理に行き、色目や節の様子を確認してこの材はこの柱にといった選木も学生と一緒にやりました。

竣工後は、学生と一緒に訪れることもあり、実際の性能がどうだったかを計測したり、住まい心地などを聞く機会もあります。このフィードバックが、貴重な学びとなります。



第5回地域住宅計画賞 自立循環型住宅部門2010年(地域住宅計画推進協議会) 自立循環型住宅研究会アワード2010ゲスト審査員南雄三賞(自立循環型住宅研究会)



第五回木の建築賞 犬賞2009年 (NPO木の建築フォーラム)

道の駅プロジェクト 「美濃にわか茶屋」

この施設は地域防災拠点施設として計画した木造の準耐火建築物です。建築をはじめ、林業、木工、環境教育の教員、在校生、卒業生、さらには行政、設計事務所、地域工務店等、様々な人が関わったプロジェクトです。

最初に、敷地上流域の木材蓄積量等を調査し、35~60年生の特に大断面の材を選択・伐採し、適正価格で購入することで山の管理を行う持続性のある計画をたてることにしました。

また、大断面の材を用いた燃えしろ設計によって耐火性能を確保しつつ構造材を表すことができています。県産広葉樹の家具や美濃伝統文化の手漉き和紙による内装など、地域性を活かした建物となりました。その上で、それらの情報を伝えるハンズオン展示型の学生が企画・運営するビジターセンターを設置しました。

市民を巻き込んだ設計ワークショップなど、長く使いたいという愛着を芽生えさせる様々な仕掛けを埋め込み見ました。

実践プロジェクトの流れ

自力建設が落ち着いてきた段階で、実際の設計や実験等の仕事に携わります。プロジェクトが発生した段階で、学生は自らの仕事量を把握しどの程度関わるかを検討し、参加します。

プロジェクトは、コンスタントにあるわけではなく、年度によって様々です。発生した段階で希望者を募りプロジェクトが開始されます。

1年目

2年目

卒業

5 総合力の素地づくり 木造建築の専門科目

実践プロジェクトや性能評価、木造建築病理学といった専門性の高いスキルを活かすには、その素地となる総合力が必要です。

アカデミーでは、構造の基礎から防火、木材の流通や性質、建築法規といった、充実した専門科目が皆さんの総合力を高めていきます。

県立の学校ならではの贅沢な少人数教育によって、学生一人一人にあったカリキュラムの構成やスピードでしっかりと素地を作っていきます。

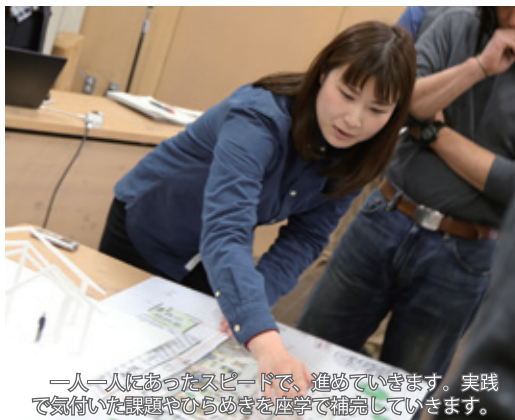
少人数教育で総合力を身につける

建築学生は1学年で概ね5名程度の人数です。それに対して、建築の常勤教員は4名。各分野のトップランナーをお招きする非常勤教員を合わせると数十人になる贅沢な環境です。基本的に専門の授業は毎日行われ、授業の合間を縫って、プロジェクトなどを学生が時間コントロールを行い活動します。

教育に深みを与えるのが、林業や木工、環境教育の本学の多彩な教員陣です。外構計画の庭づくりでは、森林生態の先生から様々なことを学び、内部に置かれる家具は木工の先生からといった具合に、総合学問である建築にとって、まさに理想の環境です。

この教育を実現するのが、施設の充実度です。学内に製材機や加工機があり、さらには実大の構造試験機まで設置されています。構造を計算によって検討したのち、実大構造試験で実際の性能を確認することもできます。

またドイツのロッテンブルク林業大学と教育連携を結んでおり、双方の学生が毎年のように学術交流を行っています。



一人一人にあったスピードで、進めています。実践で気付いた課題やひらめきを座学で補完していきます。

開講科目一覧 (2017年度の例)

木造建築専攻科目 1230		森林文化共通科目 (必須) 930	
科目名	時間数	科目名	時間数
木造建築病理学	60	森林文化 1	15
木造建築病理学実習	30	林業・林産物実習	30
先端建築学	30	地域活性化概論	30
建築材料	15	コロキウム1	15
木造建築の防火	30	専攻ゼミ1	30
構造測定実習	30	森林から木材、暮らしへ1	75
CADの基礎	15	樹木固定実習	30
空間認識	15	生態系サービスと森林の公益的機能	15
木造建築計画の基礎	30	日本の森林と林業	30
建築構法	15	環境共生学概論1	15
木造建築CAD	15	チェーンソー・刈払機操作入門	30
計画演習	15	刃物の研ぎ	15
木質構造力学・静定	30	救急法講習1	15
木材加工	30	里山利活用実習	30
基礎をつくる(自力建設)	60	森林文化2	15
墨付けと刻み加工(自力建設)	60	コロキウム2	15
小規模建築物の計画I(自力建設)	30	専攻ゼミ2	30
つくるための電動工具	15	森林から木材、暮らしへ2	30
木材塗装(自然塗料)	15	環境共生学概論2	15
木造建築法規	15	課題研究	450
木質構造力学・不静定	30		
構造設計製図・木扱い術	30	森林文化共通科目 (選択) 120	
木造建築の環境性能設計I	15	科目名	時間数
木造建築の環境性能設計II	15	文章表現の技術	15
架橋をつくる(自力建設)	60	ファシリテーション実習	30
小規模建築物の計画II(自力建設)	30	情報発信演習	30
木材の適材適所	15	地域調査法実習	30
家具をつくる(自力建設)	30	プロジェクト1	15
木造建築計画の応用	45	プロジェクト2	30
木造建築の設計製図	45	プロジェクト3	45
木取りと製材	30	プロジェクト4	60
メンテナンス実習	30	救急法講習2	15
木材利用	60	インターンシップI	30
構造解析	30	インターンシップII	30
木質構造設計の基本	30		
建築設備	30		
設計監理法	30		
木質構造設計の応用	30		
建築生物学(バウビオロジー)	15		
古民家の再生	30		
木材利用・流通	30		
小規模建築物の計画III(自力建設)	15		

※科目は時代の流れに合わせて弾力的に見直しますため、変更する場合があります。

※詳細は、アカデミーホームページからシラバスを確認できます。

木造建築の専門科目の流れ

木造建築の専門科目や、最低限知っておくべき森林・林業に関する科目が毎日開講されており、ここで総合力を磨いていきます。

建築士の受験資格科目を履修すると、卒業後すぐに2級建築士を受験できます。

また、4年の実務経験の後、1級建築士を受験できます。

2年間通して、専門科目が進行します。自力建設や実践プロジェクトで必要な知識などは、進捗に合わせて随時、授業で学び、すぐに実践します。

1年目

2年目

卒業

自分だけの武器を持つ 課題研究

学生が興味のあるテーマ・課題を見出し、1年かけて研究を行います。授業で培った木造建築に関する総合力に加えて、自分だけの持ち味を延ばすことで誰にも負けない武器となります。これらは、今後の時代を切り開く提案力につながります。

この研究で取り組んだテーマを就職後も継続して行いライフワークとなっている卒業生もいます。その道では第一人者として活躍しています。

総合力+α=「提案力」を身に着ける

これまでの人生の中での様々な経験や前職時代のスキルなどを包括した総合力に加え、この課題研究によって自らの持ち味を最大限に伸ばすことで自分だけの視点を獲得し、そこから提案する力を伸ばしていきます。

経歴も様々な過去の卒業生にはこんな方がいます。

- 大学から建築を学び、課題研究で、木材の履歴や環境負荷(ウッドマイルズ)を研究し、卒業後はウッドマイルズ研究会の立ち上げに参画し、理事として活躍している卒業生。
- 大学で建築を学び、アカデミーでその知識を深め、課題研究で、木材の乾燥時におけるCO2排出量を研究する最中に材木市場や製材所によく足を運び、実体験をもって木造住宅専門の設計事務所に就職した卒業生。
- 大学で林業を学び、アカデミーで木造建築を学んだ後、課題研究では木材流通をテーマに研究することで、山と建築家をつなぐ木材コーディネーターとして活躍している卒業生。
- 大学で法学を学び、アカデミーで建築の知識を深め、課題研究で建築と法律を融合させ、建築の訴訟問題の解決やコンプライアンスの提案が行える人材となった卒業生。

いずれも、課題研究が契機になって、自らの進む進路が明確になり、卒業後の活躍に寄与しています。

木造建築の総合力に加え、課題研究でさらなる自らの強みを伸ばし、今後の建築界を牽引する人材になっていきます。

近年の幅広い課題研究テーマ

- ・「木づかい事例集」作成の取り組みについて(16期生)
- ・地域コミュニティの場のデザイン(15期生)
- ・黒芯材の可能性をさぐる(15期生)
- ・再生可能エネルギー熱による給湯熱自給の提案(14期生)
- ・設計者の視点を加えた桧の天然乾燥に関する研究(14期生)
- ・地域材を活かした建築の設計手法の研究(13期生)
- ・横架材端部の仕口耐力の評価(12期生)
- ・断熱・気密工事における施工精度向上のための取り組み(12期生)



■住宅改修における基礎改修の円滑化をめざして(16期生)実務者の方に住宅改修における要点をインタビューしている様子



■90度角間伐材の建築的利用法 ~重ね梁構法の開発を全として~(10期生)学内にある木材開放試験室で重ね梁の実験をしている様子



課題研究公表会では100名を超える学生、プロ、一般の方に1年積み上げてきた成果を発表します。

課題研究の流れ

自力建設や授業の中で自ら興味あるテーマを模索します。

1年次後半から本格的に調査・研究に入ります。建築実務者から情報を得たり、実際の現場でインタビューをしたりと、実際の建築業界で役立つ社会性のあるテーマを中心としています。

1年目

2年目

卒業

人の繋がりが資産になる ネットワーク構築

本学には、木造建築以外にも林業、木工、森林環境教育といった森林に関わる分野があり、専門性の高い同級生をはじめ、卒業生、教員、全国のトップランナーの外部講師が集まっています。

在学中に木造建築や森林に関わる人のネットワークの構築が可能で、卒業後に皆さんの資産になります。

卒業生ネットワークで実現 TOKYO STYLE

TOKYO STYLEとは岐阜に本社を持つ工務店の東京モデルハウス・プロジェクトです。

卒業生の中島さん(卒業生紹介を参照)が企画し様々な人が集まって実現しました。

モデルハウスをつくるにあたって、自社のスタンダードとすべく、計画や構造、温熱性能、素材などの考え方を整理する必要がありました。そこで、在校生や卒業生、教員、プロの建築士の方々と交えて、基本設計のプランニング大会を企画し、様々なアイデアが生まれました。

その後も、中島さんが中心にアカデミー関係者や建築士の方を巻き込みながら実施計画がまとまりました。

施工時には、地域の方や一般の住まい手の方も巻き込んで、左官や床フローリング張り、造園といったワークショップを開催し、みんながこの住まいへの愛着を感じながら竣工しました。これらのワークショップの企画・運営は自力建設での経験があればこそとのこと。

家具は、木工卒業生が主宰するAC CRAFT(美濃市)の石井さんにプロデュースしてもらい、素敵な空間に仕上がっています。

この場所で、ライフスタイルを含めた住まいを提案するため、オープン後も様々な企画を実践しています。ここでもアカデミー時代からの人のネットワークが活躍します。

東京を拠点に活動する中島さんですが、木材や大工さんは地元である岐阜県の子供から。大都市東京にいるからこそ暖かな心遣いが一層感じられる心地いい空間です。

TOKYO STYLE HP <http://kinoie.in/modelhouse/tokyo.html>



子どもたちと左官ワークショップ 家具職人(卒業生)との打ち合わせ



TOKYO STYLEを使って、「つくるを楽しむ」勉強会 夏休みの木工教室「ひのきのフレームづくり」



薪ストーブの炎を見ながらくつろぐ空間の提案 卒業生の木工家とのコラボレーションで実現

ネットワーク構築の流れ

非常勤講師にお招きした木造建築のトップクラスの専門家や、実践プロジェクトを協同行う全国で活躍する卒業生、専門技術者研修に参加する建築実務者など、2年間の間、常に様々な出会いがあります。それらをうまくつなげるのは、あなた自身です。

また、林業や環境教育、木工といった森林・木材のスペシャリストとつながる機会他他の学校ではほとんどありません。この貴重な2年間を活かして、お互いに信頼できるネットワークを構築しましょう。

1年目

2年目

卒業

全国で活躍する卒業生

中島 あゆみ さん(10期生) あゆみ設計工房 主宰
建築系大学卒業後、アカデミーで木造建築を深め、
木造建築中心の設計事務所(大阪府)を経て独立(千葉県)

静岡文化芸術大学空間造形学科を卒業してから森林文化アカデミーで学び、卒業後は木造住宅・福祉施設等を手掛ける設計事務所(大阪府)に就職しました。

設計事務所の仕事では、図面を描くだけでなく、住まい手との打合せ・温熱性能等の各種計算・現場監理・既存建物の調査・木材検査・木配り・木材の発注・資金管理の他に、時には住まい手さんと塗装や左官の一部を体験するなど、幅広く、深く、本当に多くの経験をしました。アカデミーでの学びと5年の実務経験を経て、現在は独立して設計事務所を営んでいます。

自力建設プロジェクトをはじめ、林業・製材・木工・環境教育など、アカデミーでの分野を超えた「実践」による学びは、社会人としての仕事にそのまま繋がりを、それらの経験は私にとって大きな財産になっています。この財産を大切に、これからも木造建築の仕事をもっと深めたいと思います。



建築学生のさらなる研鑽

伊東 慶 さん(11期生) 伊東工務店
法学系大学卒業後、社会人として働き、
アカデミーで建築を学び、実家の工務店(鳥根県)へ就職

建築の知識も経験も全くなかったのに実家の工務店を継ぐことになり、その準備として入ったのがこの学校でした。ここで力を入れている教育のひとつが、性能設計(客観的に数値で検証できる根拠を用いることより、建築物の温熱性能や耐震性能などを担保する設計)です。住まいの快適性や安全性を向上させるために重要ではあるものの、一般的に地域工務店では弱くなりがちと言われる技術です。

この学校では各分野の一流の教員陣・外部講師陣が名を連ねており、理想的な環境で性能設計を学習することができました。

卒業後実家の会社に戻ってからは、これまで自社では行っていなかった構造計算や耐震性測定、温熱環境に関する計算・シミュレーションなどを全物件で実施し、自社で設計する住まいのさらなる品質向上を図っています。

毎年、大学新卒から、社会人経験者まで、前職も年齢も様々な学生をむかえ、アカデミーでの学びを終えて、木造建築の専門家として全国で活躍しています。

中島 創造 さん(10期生) (株)中島工務店
工務店を一旦退社し、アカデミーで建築を深め、
実家の工務店(東京支店)に就職

アカデミーに入学したきっかけは、現場監督をしていた時に、携った物件です。この建物はアカデミーの教員、学生が中心に計画したもので、建物の形状・配置や窓の位置・大きさなどすべてに理由があり、工事が進むにつれてその理由を理解でき、なるほどと思うところがたくさんありました。

現在の仕事は、住宅設計・現場監督を中心に、お引渡しを終えたお宅の定期点検・メンテナンスをはじめ、原稿の執筆及び、ブログやコラムにセミナー講師や、かしもツアーのガイド等を、うまくバランスを取りつつこなしています。現場では大工さんをはじめとする職人さんや住まい手の方との打合せ。会社では、設計や段取り、見積もり、住宅性能の計算などいろいろな仕事をこなします。

東京で暮らしながら「ものづくりを通して都市とふるさとの山村を繋ぐ」ことに取り組んでいます。



工務店後継者のステップアップ

相知 正人 さん(8期生) 木の建築オープンラボ 主宰
自動車会社を早期退職し、アカデミーで建築を学び、
構造設計事務所(愛知県)を起業

私はトヨタ自動車での車の設計を26年していました。その間、建築に係わることもなく、入学当時は全く建築関係の知識がない状態でした。それでも木造建築を選んだのは、やる気になれば、プランニングから建物を作って完成させるまでを自力で出来る楽しさがあったからです。

アカデミーでは、それがそのまま授業で体験できる「自力建設」があります。学校の敷地内にプランニングからほぼ全てを自分達で建築するのです。これは知識も体験もない私には、座学がそのまま実感として把握できる貴重な授業でした。また、アカデミーの授業は単に知識だけでなく、実務に生かせる技術を学ぶ場も多く、起業を志す者にとっては、一旦就職して学ぶというプロセスが体験できます。

起業してからは、かなり厳しいのは現実です。でも、やりがいがあります。



異業種から後継者へ



異業種からの転職、独立

入学時の属性

学生は大学新卒の 23 才から、早期退職を経て建築の勉強を始めた 50 代まで様々な年齢層が集います。経歴も、建築実務を経て入学してくる学生をはじめ、自動車製造業や、食品パックの会社、医療関係の仕事と前職は様々です。

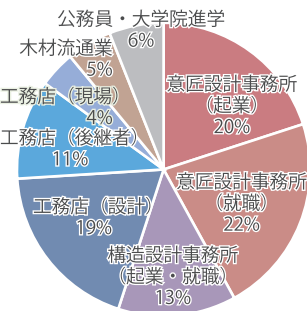
だからこそ、学生同士でも新しい視点の気付きや、ネットワークの形成等、メリットも大きいです。

建築は総合学問です。これまで建築を学んでいなくても長所にもなります。例えば医療関係の仕事から建築を学び始めると、介護やバリアフリーの視点では、すでに大きな知見を持っていたり、文学部卒の学生は、言葉の表現が素晴らしいものがあり、プレゼン時にうまく伝えられるなど、これまでの経験が強みになります。

入学時の状況は、概ね建築系大卒新卒者 40%程度、他分野から 50%程度、また実家が建築業の方が 30%程度です。

年齢は、20 代 40%程度、30 代 30%程度、40 代 10%程度、50 代以上 20%程度となっています。

卒業生の進路割合 (過去 17 年)



卒業後は意匠系の設計事務所や工務店の設計部などへ行く学生が多いです。

また、すでに 1 級建築士の資格をもって入学してくる学生もあり、アカデミーで自信をつけ卒業後にすぐに独立していく学生がいたり、林業や木材関連の授業を受け、山と町を結び役割としての木材流通業に就職学生など様々です。

卒業生の進路

木造建築分野を卒業した学生は、設計事務所や工務店の設計部に勤めたり、大学院への進学や、新しい会社を起業するなど様々です。概ね自ら行きたいところに就職することがほとんどです。全国からの求人も多く、就業率はほぼ 100%で、就職に困ることはほとんどありません。

具体的な卒業生の進路先は以下の通りです。(順不同) 卒業後の就職先ですので、ここからすでに転職、独立している学生もおります。

- 設計事務所 (意匠・構造)
 - アーキ・キューブ(岐阜県)、OM建築工房(静岡県)、Ms建築設計事務所(大阪府)、下山建築設計室(奈良県)、山田豊彦構造設計事務所(東京都)、ピオフォルム環境デザイン室(東京都)、シティ環境建築設計(東京都)、N設計室(東京都)、泉幸甫建築研究所(東京都)、神家昭雄建築研究室(岡山県)、六車誠二建築設計事務所(香川県)、象設計集団(北海道)、国建(沖縄県)
- 工務店
 - 中島工務店(岐阜県)、屋屋建設社(岐阜県)、本庄工業(岐阜県)、一新建設(岐阜県)、戸田工務店(愛知県)、葉田工務店(三重県)、菱田工務店(長野県)、北沢建築(長野県)、水澤工務店(東京都)、六車工務店(香川県)、伊東工務店(鳥根県)、シンケン(鹿児島県)
- 起業 (意匠・構造)
 - NPO 法人 WOOD AC(岐阜県)、有建築設計舎(岐阜県)、インク(岐阜県)、NGO ガイアの社(岐阜県)、スタジオ 385(岐阜県)、神谷建築スタジオ(愛知県)、木の建築オープンラボ(愛知県)、ミチ設計室(愛知県)、浦口建築スタジオ(東京都)、もりちかぐみ(東京都)、和温スタジオ(神奈川県)、かたつむり構造(大阪府)、暮らしの設計ツキノオト(大阪府)、キノマチ不動産(大阪府)
- 木材流通業
 - 東海木材相互市場(愛知県)、木童(兵庫県)、フロンティア(奈良県)